

## ⑫ 実用新案公報 (Y 2) 昭 56-33237

⑤ Int.Cl.<sup>3</sup>

A 01 K 87/06

識別記号

庁内整理番号

6804-2 B

② ④ 公告 昭和 56 年 (1981) 8 月 7 日

(全 3 頁)

1

2

## ④ キヤスティングロッド用リールシート

② 実 願 昭 52-99929

② 出 願 昭 52 (1977) 7 月 25 日

公 開 昭 54-27082

④ 昭 54 (1979) 2 月 22 日

⑦ 考 案 者 アレン・ワイアット・ジャクソン  
アメリカ合衆国アラバマ州フォー  
レイ・アザレア・エイブ 110⑦ 出 願 人 大丸興業株式会社  
大阪市東区北久宝寺町 4 丁目 27  
番地の 1 (鴻池ビル 8 階)

⑦ 代 理 人 弁理士 吉木 由蔵

## ⑤ 実用新案登録請求の範囲

パイプ状のリールシート本体 1 のリール足 2 が  
載置される部分を切り欠いてここに長孔 3 を設け、  
上記リールシート本体 1 の長孔 3 の前端部の両側  
を切り欠いてここに湾状切欠 4 を設け、上記リール  
シート本体 1 の長孔 3 の前端部および上記湾状  
切欠 4 の前方部分を円筒状に大きく膨らませてリ  
ール足受止部 5 を設け、上記リールシート本体 1  
の後半部の外周におねじ 6 を設け、該おねじ 6 に  
リール足固定ナット 7 を螺嵌して成るパイプ状の  
リールシートにおいて、上記リールシート本体 1  
のリール足 2 が載置される部分の反対側にキャス  
ティング用の指掛け 8 を一体に形成し、上記リール  
シート本体 1 およびリール足固定ナット 7 の少  
くともこれら要部を炭素又はグラファイト繊維を  
素材とする複合材料によつて形成したことを特徴  
とするキャスティングロッド用リールシート。

## 考案の詳細な説明

この考案は、フライキャスティングやスピニング  
キャスティング等を使用されるキャスティングロッ  
ドにリールを取り付けるためのパイプ状のキャス  
ティングロッド用リールシートに関するものであ  
る。

最近、各種釣竿はグラスロッドよりカーボン又  
はグラファイトロッドに移行しつつあり、このカ  
ーボンロッド等は、グラスロッドに比較して強く  
軽くそして反発力に優れたものであるから、グラ  
スロッドの場合よりその太さが細くされている。

これによつて釣竿に固定されるパイプ状のリール  
シートも必然的に細くされているので、従来の  
グラスロッドに使用していたリールや大きな足を  
有するリールは使用できなくなつた。

この考案は、このような問題点を有する従来の  
パイプ状のリールシートを改良して、細いリール  
シートでありながら大きなリールや大きな足を有  
するリールを取り付けることができるようにした  
パイプ状のリールシートを提供することを目的と  
する。

次に、リールシート本体の下面にキャスティ  
ング用の指掛けを一体に形成することにより、パイ  
プ状のリールシートをキャスティングロッド用の  
リールシートとして使用できるようにすることを  
目的とする。

更に、リールシートの要部を炭素又はグラファ  
イト繊維を素材とする複合材料によつて形成する  
ことにより、これに挿嵌され継がれた軽量のカー  
ボンロッド等の調子を損うことなく釣竿全体を軽  
量にすると共に、カーボンロッド等の穂先に与え  
られた魚の当りをそのまま手元の手指に敏感に伝  
えることができるようにすること等を目的とする。

その構成を図面に示す実施例について説明す  
れば、次の通りである。

この考案は、パイプ状のリールシート本体 1 の  
リール足 2 が載置される部分を切り欠いてここに  
長孔 3 を設け、上記リールシート本体 1 の長孔 3  
の前端部の両側を切り欠いてここに湾状切欠 4 を  
設け、上記リールシート本体 1 の長孔 3 の前端部  
および上記湾状切欠 4 の前方部分を円筒状に大き  
く膨らませてリール足受止部 5 を設け、上記リール  
シート本体 1 の後半部の外周におねじ 6 を設け、

3

4

該おねじ6にリール足固定ナット7を螺嵌して成るパイプ状のリールシートにおいて、上記リールシート本体1のリール足2が載置される部分の反対側にキャストイング用の指掛け8を一体に形成し、上記リールシート本体1およびリール足固定ナット7の少くともこれらの要部を炭素又はグラファイト繊維を素材とする複合材料によつて形成したことを特徴とするキャストイング用リールシートである。

図面において、9はカーボンロッド等の竿本体であり、上記リールシート本体1は適当な方法によりこの竿体9に固定される。10はリール、11はリールシート本体1のリール足受止部5を金属パイプにより形成する場合のリール足受止環、12はリール足固定ナット7の前半部外周に取着したローレット付環である。

上記構成において、リールシート本体1はその全体を炭素又はグラファイト繊維を素材とする複合材料によつて形成してもよく、図面に示すように、おねじ6とリール足受止部5を含むリール足受止環11を金属製としてもよい。そしてリール足固定ナット7もその全体を上記複合材料によつて形成してもよく、図面に示すように、その前半部外周に取着したローレット付環12を金属製としてもよい。

以上に説明したように、この考案のキャストイング用リールシートによれば、パイプ状のリールシート本体1のリール足2が載置される部分を切り抜いてここに長孔3を設けたことにより、リール足2は直接に竿本体9の上に載置されることになり、その位置を低くしてリール10と釣竿とをより一体化させることができると共にリール足2の前端部をリールシート本体1のリール足受止部5の内側に挿嵌し易くすることができる。

次に、リールシート本体1の長孔3の前端部の両側を切り欠いてここに湾状切欠4を設けたことにより、大きなリール足2でもその前端部の両側の両側部分がリールシート本体1に当つて挿嵌で

きないというようなことがないので、容易に取り付けることができる。そして上記湾状切欠4を設けたことによつて、リールシート本体1の長孔3の前端部および湾状切欠4の前方部分を円筒状に大きく膨らませることができるので、大きく丈夫なリール足受止部5を設けることができ、これによつて大きなリール足2でもその前端部を確実に挿嵌することができる。

即ち、このリールシートは、上記リールシート本体1に形成された長孔と湾状切欠とリール足受止部との相乗効果によつて、細い釣竿に固定された細いパイプ状のリールシートにでも大きなリール又は大きな足を有するリールを確実に取り付けることができる。

更に、リールシート本体の下面にキャストイング用の指掛けが一体に形成されているから、パイプ状のリールシートをキャストイング用リールシートとして使用することができる。

そしてリールシートの要部が炭素又はグラファイト繊維を素材とする複合材料によつて形成されているから、これに挿嵌され継がれた軽量のカーボンロッド等の調子を損うことなく釣竿全体を軽量にすることができると共に、カーボンロッド等の穂先に与えられた魚の当りをそのまま手元の手指に敏感に伝えることができる。次に金属製の場合と異なり、さびる恐れがなく且つおねじとリール足固的ナットとのねじ込みの滑りがよく、リール足を迅速にリールシートによつて釣竿に取り付けたり取り外したりすることができる。

#### 30 図面の簡単な説明

図面はこの考案のキャストイング用リールシートの一実施例を示すものであり、第1図は正面図、第2図は縦断面図である。

図面において、1はリールシート本体、2はリール足、3は長孔、4は湾状切欠、5はリール足受止部、6はおねじ、7はリール足固定ナット、8は指掛け、9は竿本体、10はリール、11はリール足受止環である。

図 1

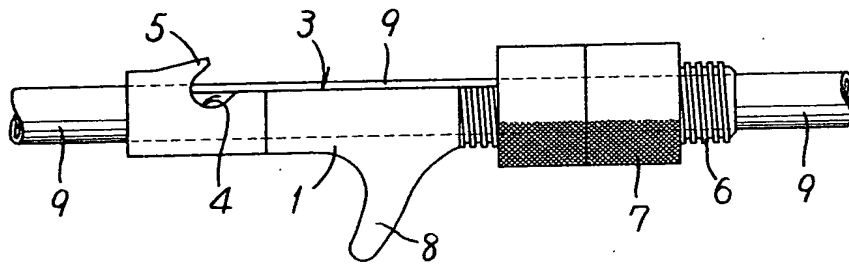
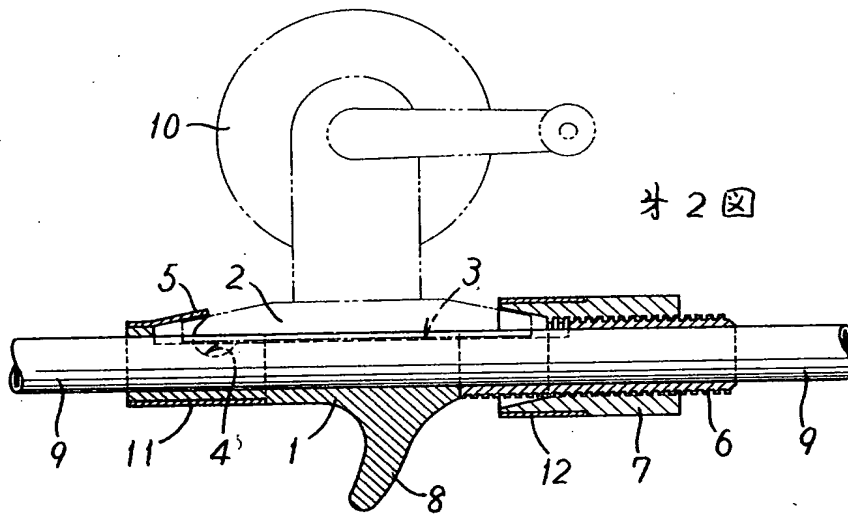


図 2



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**